

北光吉 きらいきち 哲學者。明治十八年七月二十一日新潟縣佐渡生れ、昭和二十六年八月五日歿（六八—九六）。筆名北光永。北一輝の弟。明治四十二年早稻田大學文科哲學科卒。十浦中學校、東京府立第二中學校教諭、早大講師を経て大正七年歐米留學。十二年歸朝後大東文化學院教授、『日本新聞』編輯監督。昭和二年雜誌『祖國』創刊。翌年若宮卯之助、杉森孝次郎、瀧本誠一、木村泰賢等と府ら中心となり祖國同志會を結成した。十年多摩帝國美術學校を創立、翌年衆議院議員（當選八回）。また尾崎行雄等と共に大政翼賛會に反對した。戦後自由黨結成に盡力。

著書に『ロベルグソン哲學の解説及批判・第二編 物質と記憶』（大正二

創造の進化

年十一月）『二十一年南北社』、『女當性の哲學』（大正十二年六月）二十

八年東京早稲田泰文社）、『折學行脚』（大正十五年五月）二十五年新

潮社）、『昭和維新』（昭和二年十一月十五日世界文庫刊行會）、『日

本精神と蘭的才』（他五名合著、昭和九年十月二十日祖國會出版部）『祖

國會叢書』（、『コリアツシヨと國家社會主義』（編著、昭和十二年）一

月十日日本書莊）、『排撃の歴史』（昭和十六年九月十日大理書房）、

『戦争の哲學』（昭和十八年二月十五日大理想書房）、『決戦下青年の

訴ふ』（他七名合著、非凡閣編輯局編、昭和十九年四月十日非凡閣）

等。譯書には、『タゲール講演集』『古の道』（大正十二年九月二十日

大阪・プラトン社）、『ベルグソン著』『時間と自由意志』（大正十四年

二月五日新潮社）『社會哲學新學說大系』（、『ヘブダインゲ

著』『改訂近世哲學史』（上巻・昭和二年四月二日、下巻

・六月十日新潮社）、『獨譯明治天皇御集』（昭和十



九年四月二十日圖附書房(筆がりのり。